



vol. **22**

# 議会だより

平成21年8月15日発行  
編集／養父市議会広報特別委員会  
発行／養父市議会  
〒667-8651 養父市八鹿町八鹿1675  
TEL 079-665-6800 FAX 079-665-6801



ようこそ養父市へ

第53回全国高等学校登山大会 7月31日(金)～8月4日(火)  
氷ノ山・鉢伏山・蘇武岳コース ～君が今 歴史の新たなページを創る～  
(早朝に霧雨の中を登る女子隊 36 チーム 8/1 鉢伏山コースにて)

# 2号補正 16億8千万円

第35回養父市議会定例会が、6月12日から7月7日までの26日間の会期で開かれ、25件の議案を審議した。

主な議案は、一般会計補正予算(1号・2号)市民憲章の制定・「万灯の湯」指定管理者の指定など。また「新型インフルエンザ対策の支援を求める」意見書をはじめ五件の議員発議を可決した。6月18・19日の2日間には、13名の議員が一般質問を行った。議会審議と並行して「議会報告会」を4会場で開催し(4頁・5頁掲載)開かれた養父市議会への第一歩を踏み出した。

一般会計補正予算(2号)は、国の第二次補正予算に伴うもので「経済危機対策臨時交付金」等の国県支支出金14億8705万円を主な歳入としている。

- ◆ 携帯電話通信アンテナの整備3ヶ所(岩崎・和田・森)
- ◆ ペレットストーブ(木質加工燃料暖房機)10台購入
- ◆ 下網場ポンプ場改修・八鹿浄化センター新設備導入
- ◆ 八鹿小・大屋中の地震補強工事
- ◆ 市内小中学校パソコン473台・電子黒板16機購入
- ◆ (仮)つるぎが丘健康支援センター建設。

市単独事業は「万灯の湯」再開のための整備工事費383万円と観光協会への事業委託800万円の2件。

特に今回の補正は、小中学校の学校耐震化の早期促進・パソ

コン等の電子教育の整備に予算総額の62・5%(約10億5000万円)が充てられている。

本会議では、八鹿浄化センターへの新設備導入による経費節減効果、ペレットストーブ購入に際し、養父市としての環境政策立案の必要性、観光協会の合併の進捗、800万円の観光振興委託費の目的、予算執行に伴い市内中小事業所への受注機会を付与すべき等の質問が出され、当局から、浄化センターは処理コストで年間約1000万円の経費削減になる、今年度中に養父市のバイオマスタウン構想に着手する、観光協会は今秋までに合併推進させたい、市内事業所への受注機会を極力配慮したい、などの回答があった。

## 万灯の湯 8月2日オープン



昨年8月から休止となっていた関宮農村交流ターミナル(万灯の湯)の指定管理者が京福電気鉄道株式会社(京都市)に決定した。

5月の募集期間に応募があったのは次の2者  
○喜農活菜(キノウカツサイ)  
○京福電気鉄道株式会社

昨年8月から休止となっていた関宮農村交流ターミナル(万灯の湯)の指定管理者が京福電気鉄道株式会社(京都市)に決定した。

5月の募集期間に応募があったのは次の2者  
○喜農活菜(キノウカツサイ)  
○京福電気鉄道株式会社

学識者3名を含む6名の選定委員会で京福電気鉄道株式会社を選定され、6月30日の議会最終日に議案として上程された。

議会では会期を7月7日まで延長し、産建環境常任委員会に付託して審査を行った。審査では、次のような質疑があった。

問 京福電気鉄道株式会社の審査にどんな印象をもったのか。

答 事業の継続性があるかどうか検討した結果、人材的・資本的に大きいので選定した。またこの会社はいろんな面で交流があり、これから幅がもっと広がっていく。農業と観光を合わせて癒しの施設にしていきたいと意欲満々である。

委員会での審査の結果は「原案可決すべきもの」と決定、本会議でも「原案可決」とした。

# 6月定例会 大型



▲万全な地すべり対策を

## 1号補正 1億5千万円

第35回養父市議会6月定例会の初日(12日)平成21年度養父市一般会計補正予算(第1号)が提案され、質疑の後、全会一致で原案可決とした。

補正予算の総額は1億5765万6千円で、主な事業は、市道高柳とが山線の地すべり兆候への対策にかかる地盤調査と復旧工事への対応に1億500万円を投じて安心安全

な市道維持に努めるもの。財源は、公共土木施設災害復旧事業費国庫負担金7000万円と公共土木施設補助災害復旧事業債(市債)3500万円。

その他の事業は、中小企業雇用維持支援補助金1000万円を当初予算化したのが長引く不況のため、さらに2000万円を追加、新型インフルエンザの風評被害により影響

を受けた事業者が借り入れた資金に対する利子補給に500万円、女性特有の子宮がん・乳がん検診の受診率向上を図るため節目対象者に無料受診券の支給に303万2千円、地域の環境保全を図るため不法投棄監視員の雇用に300万円、移住促進を図るため空家や遊休農地の調査・データ化への雇用に360万円、農道除草や舗装修理等の作業委託に200万円など。

### 民間から副市長 藤岡氏

5月29日に開かれた第34回臨時議会において、藤岡美智夫氏・66歳(養父市大屋町宮垣)を副市長に選任する議案が提出され、全員起立賛成で可決されました。

前職は、たじま農業協同組合非常勤役員です。

以下、本会議での主な質疑と答弁(市長)です。

**問** 3月議会で議員を副市長にという議案は否決された。どのような反省し、今回提案になったのか。

**答** 十分反省を踏まえている。市政の円滑な運営の為に副市長は必要である。

**問** 具体的な反省は何か。本人はどのような決意なのか。

**答** 私の想いと議員の想いに大きな乖離があった。藤岡さんとは十分に話し合い、養父市のために役に立ちたい想いがあったということだ。

**問** 19年4月の地方自治法改正により助役から副市長に名称変更され、場合によっては

事案の処理決定責任を持つなど副市長の権能が強化された。本人はどのように市政執行に臨もうとしているのか直接所信を聞く機会が必要だ。

過去の経歴ではなく、未来に託す本人の所信に期待をし、議員が判断する仕組みが必要だ。この考えはなかったのか。

**答** 現行制度では議員への十分な説明ができない。

**問** 前回は圧倒的多数で否決した。副市長自体は必要だ。民間しかだめだ、職員ではだめだと言う、なぜ民間にこだわるのか。

**答** 行政人がだめとは言っていない。行政組織に民間的な

考えを取入れるということだわりがあった。

**問** 民間にこだわる市長の想いが伝わってこない。3月の反省を踏まえるならば、民間に限定せずすべての分野から人材を選ぶべきであった。職員ははなから選択肢になかったようだが職員を否定せず大事にすべきだ。

行革について民間の活力、新しい風を導入したいという考えだが、藤岡氏も同様か。今の行革方針を踏襲していくのか、それとも行革の見直しの先頭に立てる人物なのか。

**答** 民間の活力を入れていく方がよりよい組織、市政ができるということだ。JAの統

合、統合後の組織改革を体験され、その経験と知識が行革に生かされると考える。

現行の見直しではなく、かけている職員のコスト感覚を習得できるようにしてもらいたい。

**問** 行革を新しい立場から、民間のいろんな考え方から見ていく立場から副市長を受けられたのではないか。

**答** 行革は粛々と行っていく。藤岡氏の知識、経験を生かしていただくということだ。

# 第1回

# 議会報告会

## 関宮会場

■平成21年6月11日(木)

■エイドホール ■参加者67名

### 参加者からの意見・質問

◆副市長選任について各議員の賛否と理由は。

二度にわたる副市長選任の同意案件について、各議員それぞれが賛否理由を説明。

◆上・下水道料金改定は値上げ幅が大きすぎる。大量に使うところは安くするべき。

料金の公平化。一般会計から補填してきたが財政を圧迫する。

◆スキー場へのアクセス整備が遅れているのは養父市だけ。観光収入で自主財源を高めるためにも早期実現を。

中瀬・吉井バイパス計画について、県は10年後とされている。

◆過疎から市民の生活を守るのが市議会。若者定住策についてどう考えているか。

議員個々に答弁

四月から値上げされた上・下水道料金

## 養父会場

■平成21年6月16日(火)

■養父公民館 ■参加者71名

### 参加者からの意見・質問

◆南但ごみ処理場建設について

・市長の地元合意なしには着工しないという約束が守られていない。

・南但広域議会では、反対している地区があることも知らず、市議会でも南但広域特別委員会の報告もない。また、他の議員も南但広域議員に任せっきりになっているのではないか。

◆八鹿病院の医師不足は、開業医にお願いした等、ケーブルテレビで放映されたが、医師確保はどうなっているのか。

◆上・下水道料金は、子どもが多

◆高齢者世帯の多い地区では、ごみ出しさえ困難で、

定例会の審議内容、各組合議会報告の後、質疑応答により進めようと臨んだが、参加者の熱心なご意見、ご提言に対し、当初の予定どおりに進められず、ご迷惑をお掛けする場面もあった。

今後の議会報告会は、一口に市民に信頼され、わかりやすく開かれた議会を目指すといっても、正しく理解していただくことは大変難しいことで、「議会だより」を通じて理解を図るにも限界があると思われる



## 議会をめざして

市民に信頼され、わかりやすく、開かれた議会を目指すことにより、元気なまちづくりを実現し、議会の役割と責務を果たすことを目的とした議会報告会を開催した。当初は、5月19日からスタートする予定であったが、新型インフルエンザの感染拡大防止のため延期し、6月11日の関宮エイドホールを皮切りに、公民館、市民センターなど市内4会場で開催した。今回は、「議会だより」をベースに、3月

や事業系ごみ収集など、職員の説明が十分でなかったことに対し、厳しい指摘があった。また、観光地を抱えており、施策が地域住民に影響を及ぼすため、早期の道路整備の期待が感じられた。

い家庭ほどアップが大きく生活も大変である。少子化対策に逆行しているのではないか。合併時に持ち寄った基金は今どうなっているのか。

み出しさえ困難で、買い物にも不自由している。道路が狭く食品販売車が入らないなどの問題がある。議員は旧町のことだけでなく、市全体を見ながら市民の声をくみ上げ、当局に伝えてほしい。

# 議会って何だ？ 何をするとところ？

## 八鹿会場

■平成21年6月23日(火)

■八鹿公民館

■参加者73名

参加者からの意見・質問

◆養父市は企業なら倒産の状況である。未収金対策は。収納対策室での対応と回収策の状況を説明。法的手続きについても進めている。

◆万灯の湯について

再開予定であり、6月30日の議会で審議する。観光交流人口150万人実現に、議会も取組む。

◆氷ノ山国際スキー場について

平成24年度から指定管理施設へ移行予定。

◆八鹿病院について

医師不足の中で地域医療を守るための創意工夫がある。病院の理解を深めるため、院長が市内各地へ出かけて対話し、市長と医師確保の努力がある。市民、議会、市でともに守る必要あり。

◆まちづくり基本条例と地域自治協議会について

## 開かれた

る。よって、議員が出向き、直接対話の中で理解を得られるよう努めていきたい。また、議員は一部地域の代弁者でなく、より広い見地から物事の可否を判断し、決する立場にある。この議員が、支持地盤以外の地域に向くことにより、市全体の実態を把握することができ、地域だけの意識が薄れ、市全体の代表者として議員自らの意識を高められないか。

さらに、真に市民に役立つ議会づくりは、

市民の声を聞かねばならない。市民の生の声を聞きながら当局との間に立ち、まちづくりを進めていくなど、報告会の役目は大きなものがある。

第1回目でいただいた貴重なご意見、ご提言を礎に、議会報告会が議会の機能や権限、各委員会活動、議会と市長(当局)との関係等、より正しく理解を深めていただく機会となるよう、更なる努力を続けていきたい。

## 大屋会場

■平成21年6月25日(木)

■大屋市民センター ■参加者59名

参加者からの意見・質問

◆高齢者のバス利用料金やり換えなどに、同じ市民でありながら不公平がある。

◆氷ノ山国際スキー場の補助金は、観光客に対する補助だ。一方、

2億円もの上・下水道料金負担を強いる行政をどう考えるのか。

◆市民主体の街づくりは良いが、若い人が都会に出てしまう。若者をつなぎとめる施策が必要ではないか。

◆市民が心配しているのは、借金が多く、今後どうなるのかということである。

◆八鹿病院は、患者が減っている

が、財政はどうなっているのか。

◆県道の夏梅バス停前は、交通量も多く危険である。市に横断歩道設置の要請をした。議会としても考えて欲しい。

◆八鹿の県営住宅を1億円で買い取ったが、議会審議はどうだったのか。家賃は市に入るのか。

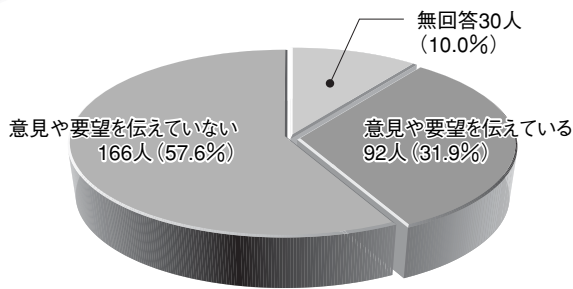
◆今年度予算の新規就農施策とは。議員はどこを見て議会活動をしているのか。報酬をもらっているのだから地域の実情を的確に把握し、市民の目線で議会活動をしてほしい。市民は議員に市政を預けているのでがんばってほしい。



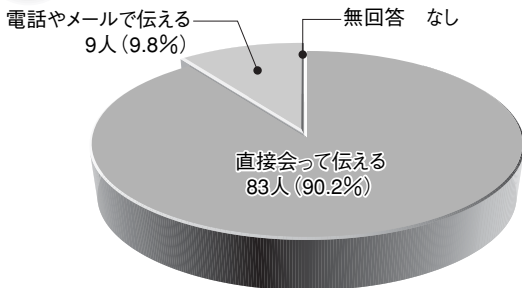
『開かれた議会へ  
アンケートを実施』

議会では、広く市民の声を聴くために議会アンケートを実施し、6月に開催した議会報告会の各会場での回収を含め、288人の方からご回答をいただくことができました。回答の中には、85件の貴重なご意見が寄せられ、「市民代表としての自覚を！」という厳しい意見や、議会報告会の取り組みへの期待をくださるものも多くありました。（お寄せいただいたご意見は、次号に掲載予定です。）

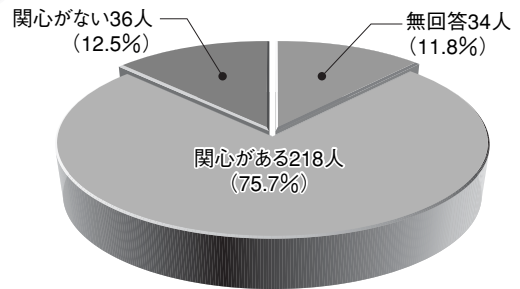
Q5 あなたは、市議会議員に自分の意見や要望を伝えていますか。



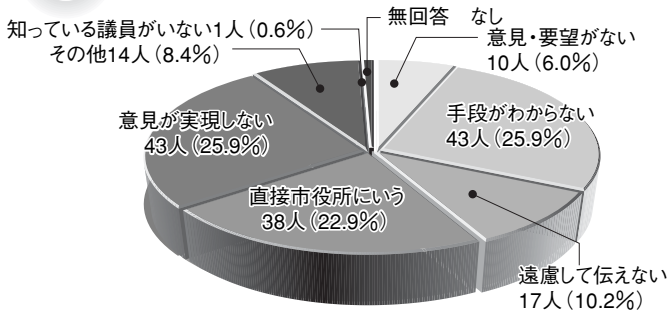
Q6 【Q5で「1.意見や要望を伝えている」と答えた方におたずねします】あなたは、どのような方法で伝えていますか。



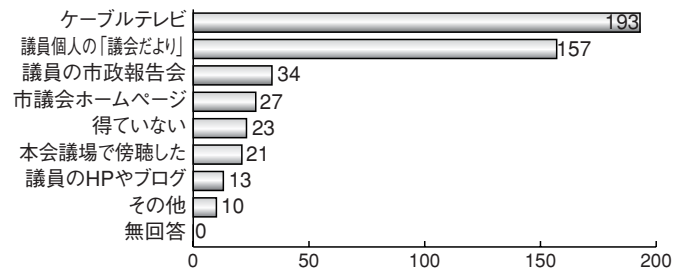
Q1 あなたは、養父市議会に関心がありますか。



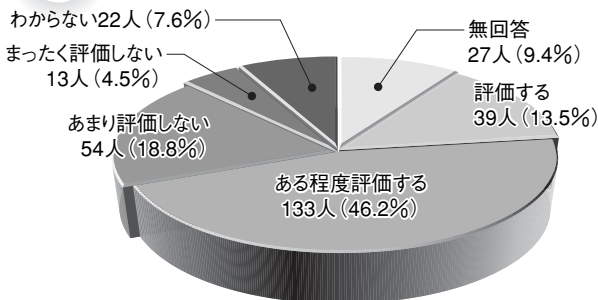
Q7 【Q5で「2.意見や要望を伝えていない」と答えた方におたずねします】伝えていない理由は次のどれですか。（該当するものを全て選んでください。）



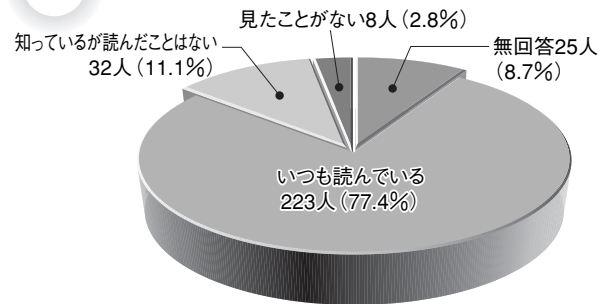
Q2 あなたは、養父市議会の情報を得ていますか。（該当するものを全て選んでください）複数回答



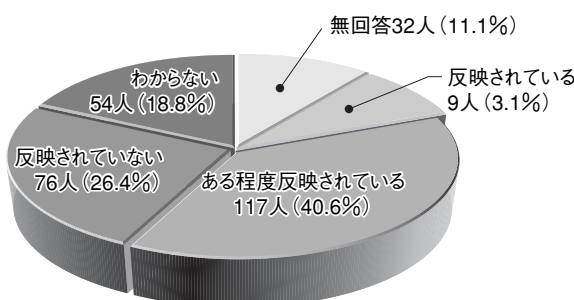
Q8 あなたは、市議会をどのように評価していますか。



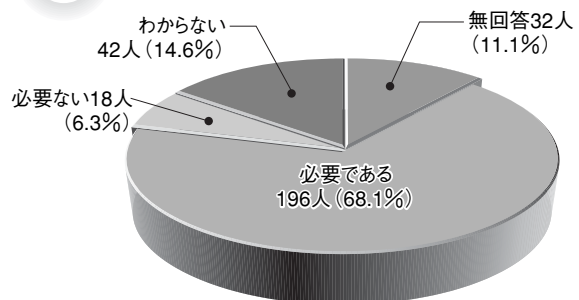
Q3 あなたは「議会だより」をご存知ですか。



Q9 あなたは、市議会に市民の声が反映されていると思いますか。



Q4 あなたは、議会報告会の開催について、どうお考えですか。



## 研修報告

## 伊賀市自治協議会に学ぶ

政策総務常任委員会は5月13日(水)、自治基本条例を制定し条例を実行する活動組織として住民自治協議会を立ち上げている三重県伊賀市を視察し、現状と課題、取組みの成果を学んだ。

伊賀市は平成16年11月に旧上野市を中心に周辺3町2村が合併して誕生し、面積は558平方キロメートル、人口10万人都市として発展している。



▲三重県伊賀市を視察調査

自治基本条例は、新市建設計画に盛り込まれた住民や地域が主体となった自治の方針を確かなものとするため、新市発足後の平成16年12月議会と特設された。主な条文の柱と特徴は、情報の共有、市民参加、自治の仕組み(住民自治協議会)、議会及び行政の責務を明文化していることにある。

住民自治協議会は、自治区だけでは解決しにくい地域の課題や問題点を地域住民で解決し、行政がこれらの活動を支援していく役割を持っている。顔の見える身近なまちづくりの単位として、小学校区単位の設立を市が認可。この4年間で38地域のうち37地域に設立され活動している。都市部から中山間地域と自治協議会の特性があり、高齢化率は19%と41%、人口は450人〜4千人規模と様々である。

自治基本条例は、新市建設計画に盛り込まれた住民や地域が主体となった自治の方針を確かなものとするため、新市発足後の平成16年12月議会と特設された。主な条文の柱と特徴は、情報の共有、市民参加、自治の仕組み(住民自治協議会)、議会及び行政の責務を明文化していることにある。

団体(PTA、ボランティア、NPO)、企業、公募による住民で組織され、会の方針や重要事項について審議、決定している。活動の目的分野ごとに(福祉、教育、環境、防災等)実行委員会・部会を設置。自治協議会単位で実行計画を作り、会員が情報や課題・計画を共有してまちづくり活動を実践している。

が、いつまでも継続交付は出来ない。財政が厳しいので旧町村時代の各種補助金を整理し包括交付金化することを検討している。

効果は特に見えにくいのが、農産物直売所の開設などで成果を上げている協議会もある。市民が地域の課題解決に向けて様々な分野で主体的な活動の展開が見られる。未設立地域には地域支援交付金が出ないなど差がある。またこの4年間で市職員は124名減員し、スリム化が図られた。

基本的に単体の自治区では解決しにくい分野、広域で取組むことで効率が良い分野など機能のすみ分けを協議して進めている。

優良な活動事例が見られ、「人が輝く、地域が輝く」自立したまちづくり活動が展開されつつあり、自治協議会の役割はますます重要になっている。

今後の課題として、自治協議会のリーダーが区長、議員OB等が多く、あらゆる階層のリーダー養成が急務である。また運営費の自主財源確保を行い、組織の自立体制への移行が課題となっている。

## 意見書・請願

新型インフルエンザ対策の支援をもとめる意見書  
議員発議で可決

内閣総理大臣、総務大臣、文部科学大臣、厚生労働大臣、産業経済大臣、財務大臣に意見書を提出

自主共済制度を保険事業法の適用除外とすること  
を求める請願書

請願者 兵庫県保険医療協会但馬支部 (可決)

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、厚生労働大臣、内閣府特命担当大臣、金融庁長官に意見書を提出

次期定数改善計画の実施と義務教育費国庫負担制度の2分の1還元と堅持  
に関する請願書

請願者 兵庫県教職員組合養父支部 (可決)

内閣総理大臣、文部科学大臣、総務大臣、財務大臣に意見書を提出



▲説明を受ける委員

## \* 議会運営委員会 \*

# 熊取町(大阪府)行政視察

「議会報告会」の目的・効果など議会基本条例に条文化されるべき取組みに先駆け、平成21年4月16日(木)先進事例として大阪府熊取町への調査研究を行った。

平成20年に制定された議会基本条例第6条にあわせて、報告会実施要綱、議会広報発行要綱などが整備され、基本理念に基づき「報告会」が開催されていた。

目的としては、議会基本条例の基本理念として、

- 議会機能を果たすために、首長以下の行政担当者として一定の緊張関係を保つ
  - 分かり易い議会
  - ガラス張りの議会
  - 住民に身近な議会
  - 活力ある議会
- などであり、その実践として議会だよりの発行と議会報告会に取り組みされていた。

「議会だより」については、従来から取り組んではいるが、報告会開催においては、地区の選定、班編成のポイント、報告会のルールなどが要綱化されていた。町域面積が狭いために報告会は定例会毎、38地区で開催され、一年に一度は自治会で開催されるよう配慮されていた。

養父市議会でも開催に向けては詳細な実施計画を立て、市民が参加しやすく議会の活動が見えるよう配慮すべきである。

## 伊賀市行政視察

## \* 議会基本条例調査特別委員会 \*



▲説明を受ける委員

平成21年5月13日、14日、議会基本条例の先駆的取組み自治体として、伊賀市(三重県)への行政視察を行った。

伊賀市は合併時の協定から、自治協議会の立ち上げが取り組まれており、養父市の状況とは若干の差異が感じられたが、地方分権化の中での議会基本条例の必要性を当時の議長から説明を受け、委員の質問にも回答をいただいた。

伊賀市では、婦人会・商工会など35団体の約500人から意見を聴取し、出された意見を取り入れた基本条例とし、議会報告会や議員同士の自由討議などを規則化するなど新たな取組みが行われていた。

今後の問題として、議員間議論を徹底的に行うなど、運用的には課題もあるようであった。



## 一般質問



深澤 巧議員

### 新型インフルエンザ対応について

**問** 今後の危機管理の課題は何か。感染者への人権侵害はおきなかったか。市はマスクの配布をしたが、高齢者家庭等に行届く配慮が足りなかった。

**答** 今回の経験を踏まえ、細やかな住民支援を検討していきたい。

### 景気・経済対策について

**問** 不景気のため市内で休業する事業所がまだ増えている。市が実施している休業補償の支給率を引上げ、対象者も市外事業所勤務者にも広げる政策拡大をすべきだ。

**答** 現在の施策は、他の自治体でも注目され評価されている。今後、柔軟な形で検討していく。

### 指定管理料の削減と市営スキー場について

**問** 天滝などの公園管理や歴史文化施設に対する指定管理料が来年度にはゼロになる。収益性のない施設まで一律的に削減しては、これからの町づくりと政策矛盾する。地元団体とよく協議すべきだ。削減は一旦凍結すべきだ。

一方で市営スキー場に、この3年間で8千万円の赤字補填をしている。今年からでも大きな赤字が出ないよう事業縮小すべきだ。24年からの指定管理者への移行方針だが、早めの公募・地元住民との協議開始が必要だ。今のままでは事業の継続に市民理解は得られない。

**答** ご指摘のとおりだ。将来的な計画は十分でない。早めの地元との話し合い等の準備を、ご意見を尊重させて進めていきたい。



森本 茂行議員

### 養父市の農用地の見直しについて

**問** 農地改正法が国会で成立した。戦後農地改革以来の、農地は耕作者のものとする自作農主義を見直す改正である。農地の貸借を原則自由とし、企業の農業への参入規制も緩和する。全国的に農業の担い手不足が生じており、養父市でも高齢化が進み、農業の後継者不足もあり、就農など農業の活力になく工夫、企業の参入が各地域に求められるが、農地法の改正だけでは農業を取り巻く問題は解決されない。市の特産である蛇紋岩米の生産など、農業振興に努力し、農地の荒廃を防ぎ利用していくことが大事な課題ではないか。

**答** 市では、農業振興地域整備計画を策定し、農業上の利用を確保すべき土地について定めており、5年ごとに見直しを行っている。

### 養父市の公有財産利活用について

**問** 平成18年3月定例会で、養父市の公有財産の売却について検討委員会を設置し、整備計画を策定して財産の利活用を図ることであったが、整備計画書はできたのか。売却の目標を1億円としていたが達成できたのか。八鹿町天子区の庄境団地、栄町の水源跡など多くの普通財産があるが、売却等どう考えているのか。

**答** 平成19年度に決定した普通財産の処分方針に基づき検討している。10000m以上の遊休地で貸しているものもあり、土地の状況、現状を把握しながら、利活用については処分を含め今後検討していく。



藤原 敏憲議員

### 副市長は市長のイエスマンでなく、市民の目線で任務を果たすことが必要

**問** 藤岡副市長選任の議案提案で市長は、藤岡氏は農業などに精通しており、農協合併の手腕もある。これを養父市の行政に生かしてもらえぬ人物だと説明した。副市長になって、養父市をどうしたいと考えているのか。

**答** 農協では、古い部分を切り捨て、新しい事業などを進めてきた。そして、大事にしなければならぬのは組合員だ。組合員あつての農協だ。これらのことを養父市の行政にも生かしたい。

**問** 副市長は市長のイエスマンであってはならない。市長の暴走を食い止め、良い面は生かしていく。市長の暴走を食い止め、良い面は生かしていく。市長の暴走を食い止め、良い面は生かしていく。市長の暴走を食い止め、良い面は生かしていく。

**答** 疑問点が出たら、私なりの意見は申し上げるつもりだ。

**問** 市は財政が厳しいからということ、公共料金の大幅引き上げを行い、水道・下水道では2億円もの負担増となり、多くの市民から怒りの声が出ている。農協では経営が悪いからといって、販売価格の大幅引き上げなどしていたら組合員がやめていく。これらの市の姿勢についてどう考えるか。

**答** 農協では、組織の見直しなどで低価格の販売をしたり、効率的なサービスの提供をしてきた。そうしないと組合員の理解は得られない。また、改革には痛みが伴うが、それが何億円もの負担ということでは理解してもらえないのではないかと。

一般質問



西谷 昭徳議員

災害に強い森づくりを

**問** 県が平成18年度より5年間導入された緑税の継続を望むが。

**答** 関係機関等と調整しながら延長要請していく。環境基本条例を立ち上げる考えはどうか。

**問** パイオスタウン構想を計画する中で、環境立市を目指していきたい。

**答** 木質ペレットを普及させるため、ペレット用ストーブに助成する考えはないか。

**答** 公共施設に設置する考えであり、一般への助成は、現在考えていない。

**問** 電気、ガス、石油等の高騰で経営が圧迫されている温泉施設や温水プールなどの切り替えは考えていないか。

**答** コスト面での問題もあり、すぐには難しい。

「地域を守り地域と共に生きる」とは

**問** この施政方針は、地域を無視した行政のようであるが。(関宮バス停の閉鎖等)

**答** 廃止の際、地元と協議が十分できていなかったことは反省している。

**問** 水辺公園も当分の間、閉鎖となっているが。地元との協議中である。協議が整いしだい再開したい。

指定管理者制度について

**問** 施設の管理体制は十分チェックしているのか。事業完了後1カ月以内に事業報告書を提出していただき、所管部局で対応している。一部は指定管理者検討委員会では検証している。将来安定的に施設運営ができるよう検討すべきだと考える。



水野 雅広議員

北近畿豊岡自動車道(仮)八鹿インターチェンジ完成後の養父市の明(観光発展)と暗(人口流出と財政負担)について

**問** マニフェストでは交流人口150万人をうたっているが、具体的な取り組みが見えてこない。

**答** 150万人を具体化するには行政が主体となって観光協会の統合に取組んだり、今までなかった「観光振興計画」作成が必要である。また、高速道路に対応した消防設備に新たな財政負担はないのか。

**問** 交流人口を150万人にするには、行政と市民の協力関係が必要である。今以上に行政も関わりながら、今年の秋には観光協会を一本化していきたいし、新たな観光における市内の振興計画にも取り組んでいきたい。消防設備における新たな財政負担は生じない。

高校生への通学支援について

**問** 前市長・前々市長の頃より、高校生への通学支援策を提案している。市長マニフェストには通学支援が挙げられているが、取り組むつもりはあるのか。

**答** 高校の通学費に関しては、地域によっては高額になることは知っている。いろいろな問題点がある。

**問** 問題点があるのは理解しているが、今年施行された敬老優待バス乗車制度を18歳以下にも適用すれば問題ないのでは。

**答** 状況を見ながら、十分検討していきたい。



瀬原 達夫議員

但馬の医療体制の現状と今後について

**問** 但馬は豊岡病院、南但馬は八鹿病院を核とする但馬の医療体制の現時点での考え方と今後の方針は。

**答** 南但馬は八鹿病院が中核病院である。南但馬地域の住民は、八鹿病院に寄せる信頼も大きいと思っている。但馬3市2町の首長、各公立病院の院長、但馬長寿の郷と県の人たちと但馬内の医師会の会長の方たちを委員として但馬の医療確保対策協議会が設置されて、平成19年2月に報告書がまとめられ、但馬地域の各病院の再編と整備が進められているが、現状は非常に厳しいものがある。

農業振興について

**問** 耕作放棄地の現状と今後の取組みは。

**答** 現在市内に約117haの耕作放棄地がある。国の緊急命題として、これまで農地を貸す側は交付金等の補助対象でなかったが、今後一反当たり1万5千円を交付する。また、農地の復旧再生作業にも一反当たり3万から5万円を交付して復旧していただき、また、2年間ではあるが土壌改良支援として一反当たり2万5千円の交付金を創設して復旧支援をし、農家の意欲を喚起する意味で、新たな制度を設定している。

**問** 観光交流人口150万人を目指す市長のスタンスと商工観光に対する考えは。

**答** 養父市の持つ豊かな自然を十分生かしたグリーンツーリズム、エコツーリズムは良い手法だと思っており、心して取り組んでいきたい。

## 一般質問



圓山 浩平議員

### 市長の施政方針について

**問** 平成20年度の決算見込みで、実質公債費比率が22.5%となっている。行革の効果はあったのか。

**答** 第一次行政改革大綱は達成できた。一番大きな成果は、早期健全化団体を回避できたことである。平成17年度から19年度の歳出抑制により37億円削減でき、積極的に繰り上げ償還に回した。

**問** 第二次行政改革大綱が発表された。景気の落ち込みにより一般財源も不足すると思うが、21年、22年度で実質公債費比率が25%を超えるようなことにはならないか。

**答** 20年度の決算は現在分析中である。財政健全化法が施行され4つの指標が導入された。養父市の場合、実質公債費比率の黄色のラインは25%である。18%を超えたら県の指導として、公債費適正化計画を作成しながら新たな財源を借りる。21年、22年度をピークに絶対に25%を超えないような財政運営、繰り上げ償還をしているところである。公債費比率の数値は3カ年平均であり、過去2年間の数値が影響してくる。また、地方債は返済の据え置きが2〜3年あるため、21年、22年度で高くなっているのは3年前の事業の元金が入ってきているものである。今後は、18%に落としていくため500万円以上の主要建設事業について、5年間の事前審議をし、着手するよう、慎重に財政運営を行っていく。



田中 久一議員

### 第2次行政改革大綱の実施を問う

**問** 第2次行政改革大綱の中にある定員管理の適正化について、当市の人口規模の類似団体では、人口1万人当たり100人の職員とすれば、適正人数は280人となる。人口減が予想される中でなぜ350人以下を目標にするのか。

**答** 市の成り立ちや状況により一概に多いとは言えない。最終的には300人前後になる。

**問** 人員の枠配分手法の整備とはどのようなものか。

**答** 業務に見合う人員配分をし、部局の定員枠内で課・係に配置する。うまくいけば全国初の試みになる。

**問** 平成21年度中に課単位のグループ化・フラット化を実施するというが、どのように実施するのか。統廃合により余剰となる課長級については退職ポストに配置し、なおも余剰となるものは、課付参事として配置するとしているが、行政改革が言われている中、課付参事はなぜ必要か。

**答** 職階を取り扱うためと、若手職員の登用に道を開く。

**問** 収納対策室の強化について、未収金は昨年14%増加している。全会計の滞納繰越額を10%以上減少させることは可能か。また、実質約25%の減少が求められているが達成できるのか。

**答** 昨年9月から県より6名のチームの派遣を受け、市税の滞納整理を進めている。努力目標として頑張っていく。



田村 和也議員

### 「みち」と「ちいき」づくりについて

**問** 北近畿豊岡自動車道が平成23年度に開通予定だが、道路と地域資源、それぞれの価値を活かした地域づくりの取り組みが不十分なままでは、養父市は通過点にしかならないのではないか。

**答** 道づくりは、養父市に新たな活力を与える大切な要素である。市の大きな施政の一つとして位置づけている。

**問** 印象的なインター名を考え出すことが、今すぐできるまちづくりではないか。近代化遺産である明延鉱山の名を取って「明延・養父インター」、氷ノ山国定公園の名を取って「氷ノ山・八鹿インター」など、目的を持って来てもらえるインター名が必要ではないか。

**答** 検討委員会があり、地域の人々と十分協議をしながら公募するのか、行政主体にするのかを検討しながら国土交通省に依頼していきたい。

**問** 今すぐできる農林業を軸にまちづくりをする一環として、鹿・猪・山ビルなどの生息バランスを整え、山の環境を整備し、住みやすいまちづくりをする。さらに、明石との交流協定のような交流人口増加作戦など、無いものを求めるのではなく有るものを育て活かすという考えはないか。

**答** 野生鳥獣の被害を防ぐことは重要視しており、様々な施策を講じている。農林業の活用は、県の新規作戦でもあり、効果的だと考えている。体験型など新たな余暇の過ごし方を考慮しながら、積極的に自然を活用したいと考えている。

## 一般質問



西村 禮治議員

## まちづくり基本条例と地域自治協議会

**問** まちづくり基本条例の施行と地域自治協議会の設立をめざし、説明会を進めているが、得られたもの、不足しているものは何か。

**答** 地域自治組織が必要との認識が得られ、市の意気込みを感じていただいた一方で、市と市民の間に信頼感が欠けている。組織は地域課題解消の手段であり、目的があつて必要とされる。職員と市民の皆さんが、共に地域課題を共有する時間を、十分とるべきだったという反省がある。職員は仕事から地域づくりの土壌に一步踏み出し、受益者である市民の皆さんも、市と対等な関係で地域課題を考えてもらう、そんな取り組みから信頼感を育てていきたい。

## 指定管理施設について

**問** 産業経済部と同部所管の指定管理施設の協働について、かつては良好な関係があつたが、今では「補助金削減の連絡だけはしてくる」という指摘もある。丸投げしている指定管理施設があるのではないか。天滝のリピーターなど交流人になり、市長のめざす交流人口150万人構想に一步でも近づけると思うが。

**答** 丸投げという認識はないし、ことあるごとに協議している。天滝の場合、入山料をとることができないため、指定管理料でトイレや遊歩道の管理をお願いしているが、行革の方針もあつて今年で打ち切りとなる。喫緊の課題が存在するので協議が必要になつてきている。合併当初は観光建設課があつたが、地域局も縮小した。部内の横の連携をとりながら、密接な関係をとっていく。



勝地 恒久議員

## 「万灯の湯」指定管理者の再募集を問う

**問** 地域の期待を受けて開業した万灯の湯だが僅か3年8ヶ月で一時休業せざるを得なくなつた。原因を分析し再募集に臨むべきだが検証は出来ているのか。管理運営状況や事業報告書を分析し対策を講じておれば休業には至らなかつたのではないか。公共施設の管理運営は市の最大課題であり、責任は市にもあるが任せっきりではなかつたのか。回避可能であつた失敗と見るが市長はどうか。

**答** 分析は担当課でしているがまとめた報告書は出来ていない。多くの目的をもち期待されてきた施設であることを考えると、モニタリングチェックを十分行うべきであつたし、経営に対するアドバイスも必要であつたのではないかと私自身考えている。市の失敗事例に当たると考えている。

**問** 温泉の開業以来、休業状態であつても頑張つて事業を続けている「みずきの里」加工部や直売所運営協議会等の活動は、指定管理者再募集で新しい事業者が決まっても今まで通りに事業展開が出来、新たなリスクは発生しないと考えるが、そう捉えていいののか。

**答** 地域のシンボルとなる事業であり、当然これまでとかわらず事業者と一体となつた運営をしていただくために要求水準として設定している。事業者と具体的な連携話をしていただくよう事業者にも強く話し理解していただいている。



竹浦 昭男議員

重大な問題がある農地法の改正  
～四つの問題点～

**問** 農地法の改正が成立したが、重大な問題は、第1条、農地は耕作者のものという原則（耕作主義）が、農地を効率的に利用する者の権利の取得の促進に置きかえたことではないか。農外企業がビジネスのために農業への算入を許す内容である。これまでの農地法は、自ら農作業に従事するものだけに農地に関する権利を認める原則があつたからこそ、農家が安心して営農に取り組むことができた。農外企業による農地の登記や買い占めについてどう捉えているのか。

**答** 農地法改正のポイントは、自作農主義から耕作者主義になつたことである。企業の参入も可能となるが、無条件で農地の所有はできない。借地でしか認められず、常時耕作する者が1名要る。農業をしている実態が見えなくてはならない制約も設けられている。

**問** 新農地法には問題点が4つある。一、所有権を認めないものの、外資を含め株式会社、個人も自由に農地を借りることが出来る。二、借地権の上限は50年で、実質的所有に道を開く。三、企業の出資比率を高め、支配権を強める。四、農地の不法転用、産廃の不法投棄などの罰則強化を盛り込んでいるが実効性がない。全く改悪ではないか。

**答** 4点の指摘をいただいた。罰則も厳密に執行するのは難しい。年内施行予定であるので、実効性に向けて、現実の取り組みを強化していきたい。

# 一般質問



西田 雄一 議員

## どうなる観光協会は

**問** 市長は、マニフェストで観光交流人口150万人を掲げられているが、観光産業をどう考えているのか、また、観光協会の統合について伺いたい。この問題についても前から私見、提言も含め一般質問を行ってきたが、一向に変化がない。一般質問は単なるセレモニーや儀式ではない。よく理解していただきたい。

**答** 市にとって観光産業は大きな基盤産業、財政基盤をなすものだと思っている。この統合問題は基本的に合意に至っている。9月までに準備委員会、10月に会則・規約・名称等を策定、11月に統合に取り組み予定である。議員からの一般質問は決して儀式などでなく、真摯に受け止めている。

## 期成同盟会に期する

**問** 円山川本流は、日高町赤崎を境に上流と下流に期成同盟会があり、養父市は上流期成同盟会の構成市の一つである。昭和9年の室戸台風被害を機に、当時の町・村長が努力され設立された。昭和23年の改修着工以来60年余り、当初の改修地域は土砂の堆積、草木の繁茂などで再度の改修が望まれる。下流の国直轄とは違い、上流域はこの期成同盟会に頼るところが大きく、更なる期間延長を望むが。

**答** 上流改修は非常に長い歴史がある。整備区間も60年経過し、自然条件の変化や洪水基準の見直しがされている。上流全域について安全性の見直しを行うよう、期成同盟会を通じて、国・県に要望していきたい。

# 6月定例会

# その他の議案

養父市国民健康保険条例の一部改正

介護納付金課税額の変更等  
原案どおり可決  
(賛成14 反対2)

養父市国民健康保険条例の一部改正

平成21年10月から平成23年3月までの出産育児一時金を「35万円」から「39万円」にするもの  
原案どおり可決  
(賛成全員)

南但馬有機集配施設整備事業用地の取得

南但馬有機集配施設の用地に、養父市長野字唐川の田、畑5筆、8157㎡を2528万6700円で取得するもの  
原案どおり可決  
(賛成全員)

養父小学校地震補強工事請負契約の締結

市立養父小学校の地震補強工事の請負契約  
契約金額  
2億5252万5000円  
契約の相手方  
福井建設株式会社  
原案どおり可決  
(賛成全員)

消防ポンプ自動車及び消防普通積載車の取得

消防ポンプ車4台、消防普通積載車9台を1億584万円取得するもの  
原案どおり可決  
(賛成全員)



▲取得する消防ポンプ自動車（同型車）

平成21年度養父市下水道事業特別会計補正予算(第2号)

国の地域活性化、経済危機対策に伴い5800万円を投入し、八鹿浄化センターで発生する汚泥、臭気等を複合発酵処理により抑制する、環境にやさしい装置を設置するもの。  
原案どおり可決  
(賛成全員)

養父市民憲章の制定

市民が、ふるさとに誇りと愛着を持ち、まちづくりに主体的に参加するための行動規範として市民憲章を制定するもの  
原案どおり可決  
(賛成全員)

## 養父市民憲章

「やぶし愛」

あなたとわたしのこのまちは、氷の山の深き緑が源の歴史と文化を誇りとし、深い絆で結ばれた心のふるさと。わたしたちは、このふるさとをいつくしみ、今を懸命に生き、明日へとつなぐため、ここに誓います。

**養** やさしき 信頼 思いやり  
はぐくもう 和の心

**父** プナの大木 ミズバシヨウ  
自然の恵み 守ります

**市** しあわせ築こう ひろげよう  
笑顔と感謝と真心で

**愛** 愛の心で拓きます  
いのち輝く

わたしたちは、みんなのしあわせを願いながら、地球市民として誇り高く生きるため、この憲章の実践に努めます。

### 政策総務常任委員会

#### 地域自治協議会について

本市においては、急速な過疎化と高齢化が同時に進行し、高齢化率は県下最高水準の31・8%にまで達している。市内地域においては小規模集落の増加や集落機能が維持できない状況が顕著に現れつつあり、地域コミュニティの力の低下が日常生活に様々な不安を与えはじめています。

#### ▼住民説明会を開催



このような困難な時代を生き抜き、市民との協働によるまちづくりを更に推し進めていくために本年度を「まちづくり元年」と位置づけ、自主自立の地域づくりを目指す受け皿組織として、旧小中学校区ごとに地域自治協議会の設立を求め財源支援をしていくこととしている。

協議会の特徴は、事務局機能がしっかりこなせ、維持運営財源を確保することにあると説明を受けた。本委員会として、更に重要なことは

「地域まちづくり計画」を策定し、未来図を市民が共有する重要性を付け加えたい。

#### 第2次行政改革大綱について

本市においては、合併効果を活かした行財政運営を目指すため平成17年月から第1次行政改革大綱に取り組んできたが、平成18年度に実質公債費比率が導入、平成19年度には地方財政健全化法が施行され、新たな財政健全化指標が導入された。厳しい指導や規制を伴う内容であったが、市民理解と率先した取り組みの成果により、平成20年度決算において早期健全化団体指定が回避される見込みまで財政指標が改善された。

しかし、課題は今なお589億円という多額の地方債残高、ごみ処理場、斎場等の必要不可欠な新たな大型投資事業という二重の課題を抱えていることにあり、更なる第2次行政改革大綱が策定されたものである。大綱の目的は主体的な地方自治の確立、新しい行政システムへの転換という二つの柱にあるが、市民との協働なくして改革は実現し得ない。更なる情報公開と市民参画を進め、意思決定の透明性を確保しながら市民からの信頼向上に努められたい。

### 文教民生常任委員会

#### 学校の耐震診断の現状と今後の計画

市内にある11小学校、5中学校のうち、耐震基準をクリアした学校は7校あるが、昭和56年以前に建築した学校が4校あり、老朽化も進んで耐震化や大規模改造が必要となっている。

調査は、夏休みから工事にかかる養父小学校で行い、校舎1階のピロティ構造の駐車場と2階の一部に筋交いを施し、体育館も同様の工事と、照明の取替えが行なわれる。

耐震化は喫緊の課題であり、国は機関を限定して必要な財政措置講じているため、本市では前倒しで実施する計画で、八鹿、浅野、小佐小



▲養父小学校を現地調査

校と大屋、関宮中学校の耐震化を検討する。学校耐震工事は、児童・生徒が安心して学ぶ上で必要なものである。また地域住民の生涯にわたる学習、文化、スポーツなど地域拠点であり、非常時には避難場所となるため、防災拠点施設としての安全確保は重要である。

#### 指定管理施設の現状について

指定管理施設である上垣守国養蚕記念館と山田風太郎記念館は、地元住民の理解と協力で運営されている。

行革が進む中で年々指定管理料が減少しているのは他の施設と同じだが、環境学習や農業体験などで入館者確保を図っている。守国記念館では蚕を学校に提供して学習に役立ててもらうなど、賢明の努力を展開している。

山田風太郎記念館は平成20年度事務事業評価で、「費用対効果が低く、改善が見られない時は指定管理期間の満了をもって廃止し、展示機能のみ「廃校を生かした手作り歴史資料館整備構想(仮称)」に引き継ぐ」とされている。しかし、旧町時代の事業計画や、費用対効果のみの行革判断に対し、指定管理団体や地元にも抵抗がある。

産建環境常任委員会

橋梁の現状と更新計画について

橋梁の高齢化についての調査を行った。養父市が管理する道路の現状は、延長509・8km、1218路線で、そのうち橋梁数は614橋(平成20年)となっている。

橋梁の架設時期は、高度経済成長期(昭和30年～昭和50年)に多く建設され、建設数は既存橋梁の57%を占めている。供用50年以上の橋梁の割合は、平成20年では21%、平成30年に45%、平成40年には68%と橋梁の



▲市役所前の新町橋を調査

高齢化がますます進む。

橋梁調査の今後の流れとして、国の補助を受けるには、平成25年度までに長寿命化修繕計画を策定することが必要である。国の補助基準では、点検調査は延長15m以上の橋梁が対象となるが、延長2m～15m未満の橋梁でも、計画策定を実施していれば平成26年度以降の補修・補強・架け替えが補助対象となることから、平成22、23年度で橋梁の点検調査を行い、平成24、25年度で橋梁長寿命化修繕計画の策定を行うこととしている。

橋梁の調査方法は、目視によることを基本とし、桁端部や支承部及びその近傍部材は、直近の橋台や橋脚からできるだけ近接して調査する。近接が困難な調査箇所等は、望遠目視と周辺の部材等の状況から推定する。

以上の説明を当局から受け、新町橋と諏訪橋の現地調査を行った。

平成26年度以降に国の補助を受けて行う補修・補強・架け替えには、長寿命化修繕計画の策定が必要であるが、緊急に修繕を要する橋梁については、市民の安全・安心な生活をすすめるために並行して対応される。

組合議会報告

南但広域行政事務組合議会 第97回臨時会

平成21年5月26日(火)

新しく事務組合管理者になった朝来市長の多次勝昭管理者の挨拶の後、提出された議案について審議した。

監査委員の選任同意について

任期満了に伴う監査委員選出について、松田理明氏を選任することに全員同意した。松田氏は東京都在住の公認会計士で、現在朝来市の代表監査委員も務められている。

特別職の非常勤職員、議会の議員及び委員会等の報酬並びに費用弁償に関する条例の一部改正

議員及び監査委員の費用弁償(日当2000円)を廃止して、1km当たり37円の実費支給とするもの。全員賛成で可決した。

平成21年度の組合組織は、多次管理者(朝来市長)、広瀬副管理者(養父市長)、堀谷会計管理者(養父市会計管理者)ほか、養父市派遣職員4名、朝来市派遣職員7名、SE(電算関係)5名、臨時・嘱託職員3名の計19名の職員総数となっている。議会は養父市、朝来市より各5名、計10名の議員で構成されている。

公立八鹿病院組合議会5月臨時会 平成21年5月30日(土)

池口管理者報告

新年度から、新しい管理体制で組織活性化を図っている。

新型インフルエンザについては、病院も大きな影響を受け、地域の皆様に大変不便をかけたが、病院の立場をよく理解いただき、協力を得て大きな混乱もなくほぼ終息を迎えている。議員の皆様をはじめ関係各位へ感謝申し上げます。

宮野院長報告

5月16日に、当地域の高校生に新型インフルエンザの発症を認めた。最終的に八鹿病院では、11例の患者を確認した。全て高校生と家族などの関係者で一般からは発症例が無かった。市とともに行った早急な対応が、封じ込めに功を奏したと考えられる。

医師確保の課題において、麻酔科の医師が6月1日から勤務する。外科は7月1日から5人体制に戻る。整形外科の医師が2名体制となり、診療制限をせざるを得ない状況。脳外科の医師1名が近く正式に赴任される。

また、小児科、産科の医師が6月末で不在となり、厳しい状況である。新しい小児科医師について、現在折衝中である。



谷一也  
広野中野

今年5月に第一子が生まれました。養父市は、産科、小児科の医師不足の影響で市外で出産しました。これから子育てをしていかなければならない身にとっては非常に深刻な問題です。どうか医師確保に全力を注いでいただきたいです。

そして、青年会議所が行った雇用に関してのアンケート結果は、今の若者は地元で就職したいが、働くところがないので京阪神に行かなくてはならないという声が多かったのです。企業誘致や商工農の活性化を願います。  
どうか安心して住みやすい養父市にしてください。



大屋町篠  
近藤 富乃

日本の滝百選で有名な天滝の麓で「レストハウス天滝」を、天滝を生かす会婦人が営業しています。総勢12名のスタッフが交代でお客様に心からのおもてなしをと、おふくろの味を提呈させていただいております。

4月にはテレビ放送され、広く県内外からのお客様も来られますが、やはり不況の影響もあり、年々来客数が減っているのが現状です。レストハウスを永年守つてこられた先代の熱い思いを受継ぎ、次の世代へバトナタッチさせることが私たちの務めと考え、一生懸命頑張っています。多くのお客様に来ていただき、素晴らしい天滝をご覧になっていただくことを心から願っています。

### 市民の窓



梨ヶ原  
西谷 昇

養父市梨ヶ原地区は、旧関宮町関宮より10kmほど奥地区にあり、昔は戸数16戸の小さな集落でした。現在は7戸27人くらいに激減しています。今後の集落の維持を一番心配している者です。

また、周辺の集落を見ても、若い人は子どもを連れて出て行き激減しています。これ以上の過疎を止めるには、若者が定住できる働く場所づくり、雇用対策が最重要課題だと思います。今こそ、市民と行政は丸とって全力を注いでやれば、集落の維持及び発展は期待できると思います。  
よろしく願います。



八鹿町門前  
米田 三恵子

市政に全く関心のない私ですが、今の状況を打破できるのは私たち市民の声だと思ひペンをとりました。うちには16歳の娘がいます。今では想像できないですが、小さい頃は気管が弱く、病院のお世話になりました。夜中に発作を起こし、

病院に走りまわりました。以前の八鹿病院では夜間にもかかわらず、小児科の医師が駆けつけて、治療にあたっていただき、とても心強かったことを覚えています。  
ところが、今はどうでしょう。安心して子どもを生み育てることのできる養父市になるようよろしくお願いします。

### 編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

初めての議会報告会、その内容や雰囲気は伝えられたでしょうか。住民自治と議会の責務、議員の資質の向上。今後は、この報告会を、その実践の場としていかなければなりません。行政が進める「住民参加」とはまた違う角度から発展させたいものです。

先日、市内小・中学校PTA会長との意見交換会を開催いたしました。各種団体からの議会に対する意見聴取の取組みです。議会としてこのような会を催すのも、これまで初めてPTA会長の皆さん方から、議会・議員が積極的に新しい方法で若い世代に働きかけるべき、というご意見もいただきました。課題は山積ですが、議会のあり方を変えていく、そのスタートラインに立てたと思います。

